

第10回スクールミーティングにおける意見交換内容について

- 1 日 時 平成27年1月16日（金）16時00分から17時30分まで
- 2 会 場 熊本市立白川小学校図書室
- 3 参加者 教育委員会 4名（崎元委員長、泉委員、田口委員、岡教育長）
教職員 14名（白川中5名、白川小3名、大江小3名、白山小3名）
教育委員会事務局

4 意見交換のテーマ

- ① 確かな学力の向上について
- ② 豊かな人間性の育成について
- ③ その他

5 主な意見交換内容について

（◆：質問 ○：意見 ▼：要望）

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
1	①	学力不振の生徒への支援について	○不登校の生徒の中には、学習についていけず休んでいる生徒もいる。保健室登校した場合、一緒に学習をしたり、校内支援委員会で話題にしたりと、学力保障に努めているが、さらに効果的な方法を模索していかなければならないと考えている。 ○算数のTTを受け持っていたので、授業が入っていない時間は保健室での学習指導に充てていた。他の職員にも呼びかけ、協力を仰いだ。教員に対し、保健室にいる児童生徒への意識付けも大事である。	◆他の学校で取り組んでいる事例があれば紹介してほしい。 ◆個別支援対応の教職員の配当はあるのか。 ○少人数加配やTT加配はあるが、個別対応の教職員の配置はしていない。（事務局）
1	①	学力不振の生徒への支援について	○確実に授業の中で理解してほしいという思いから、授業中気になる児童には対応している。学級支援員にも授業で対応をお願いすることもある。放課後の学びノート教室も学力保障の手立てになるが、参加は任意なので、気になる児童が参加していないこともある。	◆京都市や横浜市中で、算数で習熟度別クラスを取り入れた学校を見たことがあるが、どう思われるか。

N o	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○白山小では、5年生で少人数加配があり、算数を2つのコースに分けて授業を行っている。市内でも取り入れている学校は多い。児童の実態に合わせてコースに分けた場合、「わかりません」という声が自然に児童の中から出てくるのがいいと感じている。効果は高いと感じるが、人、場所の問題がある。 ○白川小でもできることを工夫して行っているが、限界もある。人的な加配が必要。 ○昨年度、算数の少人数加配を入れていた。教育的効果は高い。ところが、理科専科の配置がなくなり、そちらの方が授業を進める上で支障が出たため、今年度は理科の加配に戻したが、学力の底上げに担任は苦心している。	○熊本市は、少人数学級は全国標準よりも取り組んでいる。
2	①	学力について	○「学力」には知識や技能だけではなく、思考力・判断力・表現力も含まれる。点数に興味はあっても教科や課題には興味がない生徒も見られる。知識にとどまるのではなく、教科の特性や面白みも味わってほしいと考えている。知識でとどまって広がっていかない。どう興味を湧かせるか、考えながら日々取り組んでいる。	
3	①	集団不適應の生徒への対応に対する手立て	○集団に入れない生徒に1時間の授業の中でどう対応していけばいいかわからないときもある。校内委員会などで検討してどうにか集団に入れるような形に持っていきたい。学級支援員も全クラスに配置ではないので、十分活用できない学級もある。 ○みんなと一緒に行動したいという気持ちはあっても体がついていかず、教室に入れない生徒もいる。いずれ集団に戻るための前段階として、保健室や支援学級を活用している。	◆集団不適應とは具体的にはどういうことか。
4	①	保護者との連携	◆欠席傾向の児童にどこまで登校刺激をすればいいのか悩む。 ○スクールソーシャルワーカー（SSW）に関わってもらい、保護者に寄り添うようにしてもらっている。	
5	①	人材確保		◆学力保障のための人材確保というのは、少人数学級のためのということか。
			▼今年度、1学期中に特別支援学級に加配がなかった。確実な人的配置をお願いします。	

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
6	①	ICTについて	▼デジタルテレビは教育効果が高いが、台数が少なく、学校内での調整が難しい。各学級に1台ずつ常時あれば活用しやすい。	◆学力充実に向け、ICTについて、状況はいかがか。 ○情報化ビジョンを策定し、それに基づき予算要求をしている。来年度は、モデル校を指定し、実践・分析して、各学校に広めていく考え。 (事務局) ▼効果がないと広がらないので、ぜひ学校が使えるようにしてほしい。
7	①	授業のUD化	○どの子にもわかりやすく、ということを意識して授業に取り組んでいる。具体的には授業に流れを作り、終わりを示すこと、黒板には児童が書くノートと同じように書くことである。これからも工夫を重ねていきたい。 ○城北小で取り組んでいる。先日も任意の研修会があり、230人ほど参加があった。ただ、土曜日にも部活指導等があり、学ぶ意欲はあっても、学ぶことが難しい実態がある。特に若い先生はそういう状況におかれている。	◆授業のユニバーサルデザイン (UD) 化について、状況はいかがか。 ◆他にも授業のUD化に取り組んでいるところはあるか。
8	②	自分の考えを持てる生徒	○自分の考えを表現できない生徒が増えてきているようだ。自分の思いを書いたり話したりと表現できないところから、生徒同士のかかわりの中で誤解を生んでいる状況がある。義務教育段階は社会性を身につける場だと思って、実践している。	
			○中学校だけでなく、小学校でも同じ状況である。学びの中で心が動かせない、コミュニケーション力や自尊感情が育っていないと感じる。これらの課題を解決するために校内研修で学ぶなど、学校全体で取り組んでいる。また確かな学力を育てていくためには豊かな心が不可欠との思いから、「心の基礎実践部」で研究を進めている。	

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○白川小では2学期からハッピータイムに取り組んでいる。毎週木曜日、朝20分間セルフエスティームを高めるようなコミュニケーションゲームやソーシャルスキルトレーニング、エンカウンター等に取り組んでいる。	
8	①	読書について	○白川小は読書量は多いほうだと思うが、やはり個人差がある。本との出会いを作らなければならないと思うが、授業の時間は限られており、余裕がなく時間が取れない。また、図書室の場所も大事だと思う。人の流れを生むので、図書室は学校の真ん中にあるほうがいいが、そういう学校は少ない。 ○読書量は、絵本から長編の読み物までいろいろあるので単純に帯出冊数では計れない。無読者を調べたほうが実がある。	◆一人当たりの貸し出し冊数は、データとして提供されるが、帯出者は少ないのか。
9	②	総合的な学習	○前任校では、総合的な学習で子どもたちに生きる力を育むべく、「いのち」「健康」をテーマに加え、達成感・充実感を感じられるように組み立てて取り組んでいた。テーマや内容次第では、学力やコミュニケーション能力の育成に有効だと思う。総合的な学習を大事にしていかなければならない。	○同感である。教科では学べないことが学べる貴重な学習の時間だと思う。
10	②	道徳教育の充実	○理科の中での道徳を考えると自然や生き物を扱う教科なので、かかわりが深いと思う。子どもの発想を大事にした授業を年に1回組むなど理科が好きだと思わせる授業を心がけたい。 ○道徳の年間計画に副読本の活用は位置づけられているので、計画にもとづいて使用している。人権教育の副読本は学校保管である。 ○白川小では、児童の実態に合わせて副読本の教材を道徳の年間計画にある教材と差し替えるなどして使用している。	◆副読本の活用はどれくらいか。
10	②	道徳教育の充実	○大江小では、5年6年生で個人で副読本を持たせている。年間計画上にも副読本の教材を位置づけている。人権教育も同様である。	◆道徳の教科化についてどう思うか。

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○評価が難しいのではないかと。校内研修で研究をすすめている。子どもの変容をどこで見ればいいのか悩む。変容を捉えて評価をするとなれば、1時間の授業ではなく、ある一定期間が必要になってくる。	
11	③	人的体制	○朝から晩まで先生たちは忙しい。事務室で代わりにできる仕事もありそうだが、人的に難しい。スタッフが増えれば先生たちも安心して取り組めるのではないかと。また、事務職員として児童生徒・教職員の動きをよく観察して、予算の執行や環境整備に努めている。	
12	③	教育相談	○特性のある子ども、親などの対応に苦慮している学校も少なくない。学校の様子をよく知っている、退職した方たちを専門機関を利用する前段階の相談員として活用をすればどうか。また、愛知では主任養護教諭制度がある。ブロックごとに経験を積んだ養護教諭をおき指導や助言にあたっている。経験の少ない養護教諭をフォローして、危機管理を充実させるために、そのような制度があればよいと思う。	